

ぐんま自治研ニュース

No.144

2023年7月28日発行

2022年度

(一財)群馬県地方自治研究センター公開セミナー 「これからどうなるの？若者は何を求めて動くのか」 特集号

- 1** 講演「昨今の若者の本質」
マーケティングアナリスト 原田 曜平 …… 1
- 2** 講演「社会運動と若者」
立命館大学産業社会学部准教授 富永 京子 …… 14
- 3** 対談「これからどうなるの？若者は何を求めて動くのか」
対談者 原田 曜平
富永 京子 …… 27
- 4** 群馬県地方自治研究センター入手資料 …… 41

2022年度(一財)群馬県地方自治研究センター公開セミナー 「これからどうなるの?若者は何を求めて動くのか」

一般財団法人群馬県地方自治研究センターは、2023年2月11日(土)午後、群馬県公社総合ビルホールにて公開セミナーを開催しました。昨今の若者の心理や本質を紐解き、若者は何を考え、どこに向かおうとしているのかを探り、共に歩いていくためのヒントを見出そうと、二人の有識者による講演と対談を行いました。

マーケティングアナリストの原田曜平氏は、世代ごとの特徴を説明、いわゆるZ世代について「圧倒的にSNS人口が多く、そして、チル&ミー、マイペースでまったりして自意識過剰。なので、大人が扱いにくいのは当然のこと」とし、若者の特徴を理解することの必要性を提起しました。また、立命館大学准教授の富永京子氏は「若者には自身の責任ではない理不尽な苦しみや痛みが多く降りかかる。それを『社会のせい』にするためにも若者こそ社会運動が必要。SNSによる匿名での社会運動への参加率は高い。自分の困りごとを過小化せずちょっとしたことでも声を上げてほしい」などと述べました。

対談は、自治労群馬県本部の田中美貴子書記次長が司会を務め、若者がより一層社会活動などに参加するにはどうしたら良いかを二人の講師に伺いました。原田氏は「今の若者が10年後、20年後にはこの日本の中心になり、彼らの価値観が日本の価値観になっていく。ということは、若者は未来から来た生活者、消費者だと考えるのがよい。中高年の価値観は凝り固まってアップデートが難しい。若者は未来の日本人なのだと思うと接すればアップデートができるのでは」、富永氏は「年長者になるほど間違いを認めづらくなる。もし間違っていたらそれを認め、謝るという姿勢も大事。それもアップデートの一つ」とし、中高年の考えをアップデートすることの必要性や、今の社会活動に若者を合わせようとするのではなく、SNSの活用も含め、若者の価値観や志向に合った社会活動にアップデートすることも大事であるといった話が出されました。

講演「昨今の若者の本質」

マーケティングアナリスト 原田 曜平氏

よろしくお願ひいたします。原田と申します。

今日は若者の話をさせていただきたいのですが、私のこの話に限っては別に何の写真撮っていただいても、SNSに載せていただいても構いませんので、やっ

り若者を知るということは、若者の文化に沿うということですから、どうぞ御自由にといい感じで始めさせていただきたいと思ひます。

まず、日本の世代論、世代論というのは明確に定義があるわけでもないですし、

完全に科学的なものではないというか、何となくこちら辺の世代が近いよねという考え方で、実際に調査するとやっぱり世代ごとで、例えばSNSの利用率だったりとか、価値観が全然違ってきたりするの、まず、大ざっぱに各世代を理解するものというふうに御理解いただければいいかなと思います。



ちょっとごめんなさい、団塊世代より上の方も聞いていらっしゃるかもしれませんが、ページの都合上省いてしまっていますが、日本は結構この団塊世代より上の世代の方たちも多いのですが、一応御説明させていただくと、戦後の第1次世代生まれ、有名人でいうとビートたけしさんとか上沼恵美子さんとか、漫画でいうと島耕作とか、そこら辺が団塊世代で、島耕作もとうとう会長も退かれ、相談役になっているんですかね。ビートたけしさんも上沼さんもどんどん番組が減っています。

そういうように今まで昭和、平成を引っ張ってきた団塊世代が一線を退いている、今の75歳の後期高齢者に入り始めているというのが、今の状況です。

ですので、昭和、平成の中心プレーヤーは団塊世代だったのですが、当然ですが、令和の時代はもう少し下の世代になってくるとい話です。

それから、その次のポパイ・JJ世代、一般的にはしらせ世代なんて言われるこ

とが多いです。要するに、団塊世代が割と政治運動を頑張っていたのに対して、それに対してしらせちゃったという世代ですが、マーケティングの世界ではポパイ・JJ世代、要するに『ポパイ』とか『JJ』とか雑誌文化をつくってきた人たちということで、こういう呼ばれ方をします。有名人でいうと明石家さんまさんとかサザンオールスターズとかユーミンとか、こちら辺です。もう結構、この方たちもいい年齢になってきたなという感じです。

その次は新人類世代ということで新人類・バブル世代とくくられたりすることも多いですが、有名人でいうとダウタウンとかとんねるずとか、あそこら辺の世代で、非常に新しい若者像をつくってきた人たちで、もう結構いい年ですが、新人類などと呼ばれました。

それから、その下が団塊ジュニアと呼ばれる人たち、団塊ジュニアそれからポスト団塊ジュニアと呼ばれる人たちで、一般的に言うと、就職氷河期世代と言われていて、いわゆる失われた20年の中、思春期を過ごしてきたという層になります。有名人でいうと、そうですね、SMAPとか嵐とか浜崎あゆみ、安室ちゃん、そこら辺です。あとはホリエモンとか、非常に今、ユーチューバーで大ブレイクしているひろゆき君とか、そういうIT長者みたいなのも結構生み出した年で、同世代間格差が非常に広がって、そういうIT長者みたいなものを生み出したり、一方で芸能界でもだんだんテレビが厳しくなる中で、SMAPとか嵐とか象徴的だと思うのですが、今までアイドルだった賞味期限何年かで消えていったのが、彼らはバラエティーもやり、歌だけではなくてドラマもやり、何もやり、司会もやりとどんどん領域を広げて、もう今40過ぎても、解散はしっちゃいましたが、みん

な第一線で生きているという世代だったりします。団塊ジュニア、ポスト団塊ジュニア。

それから、一般的に大人の人たちが理解しているゆとり世代という人たちも、もう結構いい年齢になってきています。第一次安倍政権で、ゆとり教育を見直して、その下の世代が脱ゆとり世代というのですが、日本の若者といえばゆとり世代というイメージが強い方も、いまだに多いかもしれませんが、もう実は、その下の層が出てきているよというお話です。

その下の層が脱ゆとり世代とかポストゆとり世代という人たちで、これが昨今、よくテレビとかで皆さん目にするようになったと思うのですが、Z世代と呼ばれる人たちです。ゆとり世代の下の人たちがZ世代という人たちです。

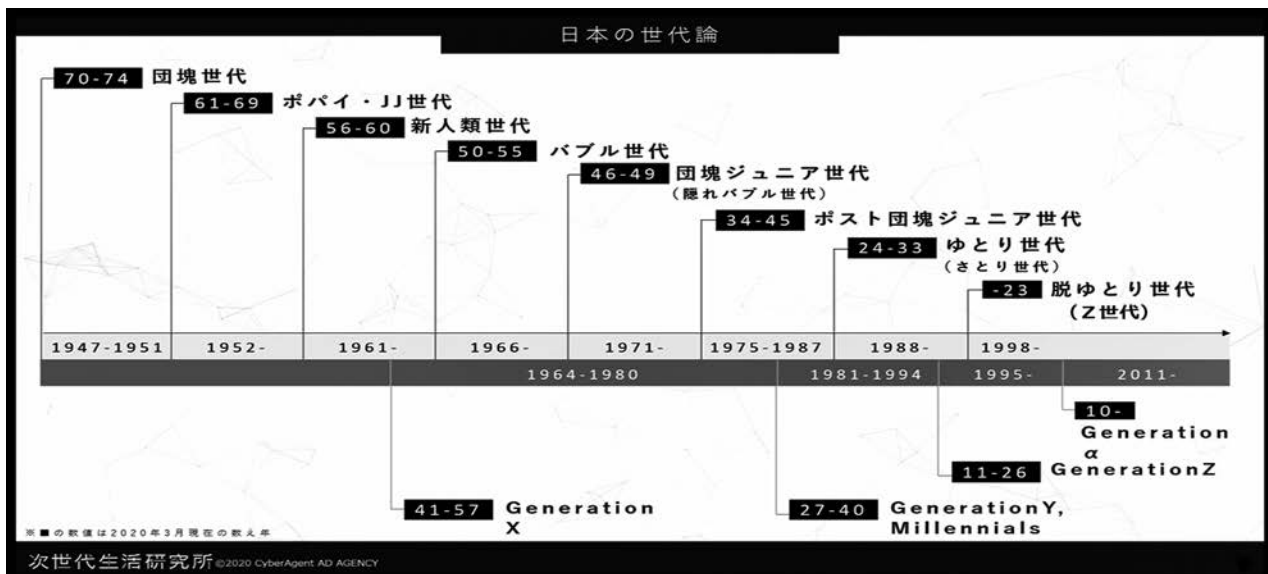
では、なぜ、このZというのが、いきなりZって何だろう、マジンガーZか、何なのかと思うかもしれませんが、これは下に書いてあるのですが、アメリカの世代論で、それをそのまま日本に持ち込んだものです。ジェネレーションXが41歳から57歳、ジェネレーションYあるいはミレニアルズとかミレニアル世代と呼ばれますが、この人たちが27から40歳、それから、11歳から26歳がジェネレー

ションZ、このアメリカでいうところのジェネレーション、アメリカというか世界、欧米と言ったほうがいいかもしれませんが、このジェネレーションZの人たちが、日本でいうと大体ポストゆとり世代と年齢が近いということで、二、三年前に私が『Z世代』という本を、そのジェネレーションZの言葉を日本語に訳して書いたものです。きっかけとなった面もあると思うのですが、Z世代という言葉が広がっていきました。そういうことでございます。

ちなみにその下の世代、アメリカではジェネレーションαと呼ばれているので、恐らく10年後ぐらいには私は「α世代」という本を書くことになると思うのですが、そういう感じになっています。ですので、Z世代というのはそこから来ているというお話になります。

もう一つ重要なのが、実はこのZ世代は、日本ではテレビとかで取り上げられるようになったのは、本当にここ多分一、二年、1年ぐらいもありません。

ところが、欧米ではかなり前からこのZ世代というのが注目をされています。何でかという、それは日本と人口構造が違うというところが非常に大きくて、アメリカにしても、ヨーロッパの先進国



にしても、実はこのジェネレーションZは人口が多い。やっぱり移民が多いですから、移民が、またその子供たちということで、ジェネレーションZは人口が多い。だから、アメリカの投資家なんかはジェネレーションZに受けているサービスとか、お店とかそれをずっと追っています。当然そこは伸びる。ビジネス的観点からも、このジェネレーションZというのは、アメリカですごく重要視を、もう10年ぐらい前からされています。

それから、トランプ大統領が2回目に落選しましたが、あのときも実はジェネレーションZが初めての大統領選だったんです。この人たちは人口が多いですから、トランプさんにとって物すごい脅威だったわけです。しかもT i k T o kなんかを使って、反トランプ運動みたいなことを大都市のジェネレーションZも行いましたから、そういう意味ではすごく、彼はジェネレーションZに負けたと言ってもいいぐらい、かなり脅威に感じていた。実際それでやられてしまったという一面もあるというところですよ。

一方、日本の場合は、とうとうコロナでさらに80万人切ったり、子供の数が少なくなっています。どんどん少子化ですから、このポスト団塊ジュニアからずっと人口構成、40年ぐらい人口下がってきていますから、40年以上。そういう意味では、注目されるのに、すごく時間がかかったんです。

アメリカだと10年ぐらい前からジェネレーションZと言っていますが、日本はここ1年ぐらい、すごく時差ができてしまった。それはやっぱり人口ボリュームが少ないので、ビジネス的観点から見ても、あまりジェネレーションZ世代に受けたとて、大したお金も持ってないし、人口も少ないということで注目を浴びにくかった。

それから、政治の1票についてもそうですね。若者の政治離れと言っても、本気で若者の政治離れを考えている政治家がいるのだろうかというふうに正直言うと思ってしまいます。1票が少ないですからね。例えばこども家庭庁って、あれは何で子供若者庁にしなかったのだろうと思います。やっぱり、子供ということは、子供を持っている世代、やっぱり30代以上、中年を見ているんですね。中年か高齢者。やっぱりきちんと思春期の、政治離れしても、若者を見て、子供若者庁にしてやればいいのにと思うのですが。そういう感じで、なかなか注目を浴びてこなかった。なのですが、ここ一、二年、やたらとZ世代という言葉が皆さんも聞くようになってきていると思うのですが、注目を浴びるようになってきた。だから、アメリカとまた違う観点です。

その理由は幾つかあります。

まず、1つは、今回のこの講演会にも関係してくるかもしれないですが、人手不足です。企業にとって、とにかく新卒採用しても、若者の数よりも、企業の器の数のほうが日本は多い国になってしまったので、なかなか集まらない。入ったとて辞めてしまうし、とにかく集まらない。地方部では結構深刻ですよ。高崎なんてまだましなのかもしれませんが、地方に行けば行くほど、本当に若者が採れないという声がある。

日本は実はこのコロナ禍で、コロナで倒産する企業よりも、人が採用できないで、あるいは事業継承する人がいなくて、人手不足倒産というのですが、こちらの件数のほうが多かった。世界的に見ても稀ですよ。コロナで潰れた企業よりも、人手不足で潰れた企業のほうが多かったということです。

実は、このコロナ禍においても、若い人たちの有効求人倍率、めちゃくちゃ高

い。それはなぜかという、移民を入れないで人口だけ減らしてきたので、結果的に付加価値が高まってしまった、人材として。そういう状況。そういう意味で、人材という観点で、組合に入らないことも含めてもそうかもしれませんが、人材という観点で注目を浴びるようになってきた。いよいよ人手不足が深刻になってきた。

それからもう一つが、SNSです。さっき私が、ぜひ写真を撮ってくださいと言ったのは、彼らの流儀に少しは合わせましょうという、ある意味メッセージも込めて、わざと言ってみたところがあるのですが、やっぱり企業はこれから、高崎にも、高崎に限らず群馬全体でいいお店とかいっぱいあると思うのですが、なかなか情報が伝わってないと思います。でも、このZ世代の人たちというのは、後でお見せしますが、SNSでは圧倒的に彼らが人口を占めています。リアル人口は、彼らは少ないですが、SNS上は最大のマジョリティーがこのZ世代です。

つまり、極端な話をすると、極端な話ですよ、おじいさん向けの紙おむつの宣伝、拡散をしようとしたときに、Z世代におもしろいと思って拡散してもらわないと、中高年に届かないという構造になっていきます。実は、SNSの時代になるにつれて、情報の拡散役という観点で、このZ世代が注目を浴びるようになってきた。これが2点目です。

人材、それからSNS、そうですね、そこら辺が大きいかなと思います。

あとは、正直言うと、この団塊世代が後期高齢者に入ったことで、恐らく令和の時代の中心プレーヤーというのは、マーケティング上ですが、団塊ジュニア、ポスト団塊ジュニアの層になると思います。なぜなら人口が多いので。日本で人口が一番多いのは団塊世代、2番目が団塊ジュ

ニアですから。ここら辺が令和の時代の中心、だから令和の時代は後で振り返ると、団塊ジュニアが前期高齢者になるまでの歴史になると思います。なのですが、一番中心は団塊ジュニアなのだけれども、団塊ジュニアに情報を届ける役目として、このZ世代がすごく重要になってきたというお話になります。

簡単に各世代を振り返ってみます。

団塊世代という人たちどういう人かという、戦後第1世代です、戦争を知らない子供たちということで、経済復興の始まりで、人口が一番多くて、世界的ベビーブームの日本版がこの団塊世代です。それから、学生時代は、一部の人ですが、学生運動なんかをやっていた。

それから、戦争の呪縛から解放された最初の世代と言われておりまして、人口が多く、競争意識も結構強い。昔よく団塊世代が歩いた後にはペンペン草も生えないなんて言われたみたいですが、割とガツガツした人たちが多かった。

それから特徴としては、封建制と革新性というのもよく言われます。学生時代とか若いときは、焼け野原だったわけですから、新しいことをいろいろやっていたのだけど、会社に入ったら社長を目指して、みんな、サラリーマン、社畜になっていった、そういう人たちです。革新性と封建制。ビートたけしさんは私3年間ぐらいずっと共演させていただいたのですが、彼が言っていたせりふですごく象徴的なのが、俺の世代は何やってもトップバッターだったんだよな。絵を描いても、漫才やっても、そういう感覚があるんだとおっしゃっています。まさにこれは革新性ですよ。戦後ぼろぼろの中、第1世代。

それから、封建制というのは、世界の北野をもってしても、たけしさんは、本当はホンダに入りたかったみたいなんで

すね、就職。ところがゼミの先輩か何かが、大学の先輩かな。いや、おまえ、明治じゃホンダ入れないよって言われて、それがきっかけで彼は傷ついて、浅草のエレベーターボーイをやり始めて、芸人になっていくんですね。実はたけしさん、封建制で、いい会社に入って上り詰めることを望まれていたというお話です。

それから、消費文化の背景としては、第1次テレビっ子世代、それこそ巨人、大鵬、卵焼きの世代です。それから、欧米文化というかアメリカ文化かもしれませんが、アイビーファッションだったり、ビートルズであったり、そういうのを自分のものとして受け入れた最初の世代です。

それから人口が多かったのも、貧しかったものの、一応若者文化らしきものは、この人たちからスタートした。『少年マガジン』『サンデー』とか、インベーダーゲームとか、そういう感じです。

それから恋愛結婚は、一応団塊世代から日本はお見合い結婚を初めて恋愛結婚が抜いたと、一応統計上言われているのですが、多くは職場の先輩から、ちょっとうちの妹、彼氏いないから、おまえ、付き合ってくれよみたいな感じで、準お見合い結婚だったというふうに言われておりますが、一応統計上は、そういう人たちで、合同ハイキングかなんかで愛を育て、だんだん大都市部では男性の稼ぎが増えてきたものですから、女性が専業主婦にみたいな感じで、専業主婦文化みたいなものを大都市部でつくっていったのが、この団塊世代ということになります。

それから、その次はポパイ・JJ世代、しらけ世代です。この人たちのときには、もう政治運動に対してしらけちゃったので、一部ウーマンリブみたいな、そういう女性的な運動みたいなのが起こり始め

たのですが、基本的には楽園キャンパスとって、大学入ったら、とにかくテニスサークルみたいなものをつくっていた人たちですよ。非常に余暇というか遊びの方向に若者の志向が振れたのが、この人たちぐらいがすごく強い。人生はエンジョイするものだという考えが強い。

それからニュートラ、ハマトラみたいなブームとか、DCブランドブームとか、イッセイミヤケとかヨウジヤマモトとか、この前たまたま東京でタクシーに乗ったら、運転手さんが群馬の高崎から出てきて、まだ1か月ぐらいという方で、たまたまお話ししていたら、俺が高校時代は、多分この世代の方だと思うのですが、高校時代なんか何万円握り締めて、早朝にDCブランドを買いに行ったというのが思い出なんですよみたいな話をしていたので、まさにそうなんだと話を聞いていましたが、そんな感じです。

ライフスタイルが音楽とともに、ユーミンとかサザンとか、それまでいなかったおしゃれでポップな、今でも生き残っていらっしゃるアーティストなんかも出てきた。それからだんだん豊かになってきたので、今ユーチューバーで活躍されていますけど、岡田斗司夫さんって、オタクキングと自分で自称している方ですが、だんだん自分のお金とか余暇をオタク活動に費やす人たちみたいなのが出てきたというのも、この世代だったりします。一挙に日本が豊かになりつつあると感じますね。

それから、ドライブデートをしたり、一部の人たちが新婚旅行がハワイになっていったというのが、この人たちだったりします。

それからその次、新人類、ダウントウン、とんねるず世代です。幼少期に高度成長期で、この世代の方たちにインタビューすると、幼少期の原体験として非常に大

きいのが大阪万博、みんな挙げる。あれはすごく感動的だったんですね、大阪万博。

それから、共通一次試験が開始されたり、それから男女雇用機会均等法の第1次世代です。でも、結果的に、この世代の女性たちは多くは、大都市部では専業主婦、またはパート主婦になっていったんですけど、結局。でも、制度としては、一応男女雇用機会均等法の第1次世代。

それから、楽しいことが最上の価値で、思想の呪縛から解放された最初の世代。哲学だ、政治思想だ、そんなものはいいと、楽しければいい、まさにとんねるずとかダウタウンとか、そうですね。それこそ、ビートたけしさんがよくダウタウンの松っちゃんのことを悪く批判する有名な話があって、要するにあいつの映画には思想がない、ただ面白いことをやろうとしているだけ。だから、あいつ駄目なんだという、かなり批判するのですが、まさに団塊世代、政治運動していた団塊世代と思想の呪縛から解放された松っちゃんの世代の、世代分断というのをすごく感じる言葉だなと思って、面白いなと思って聞いています。

それから消費文化の背景としては、Hanako世代、雑誌の『Hanako』のライフスタイル集がすごく人気が出てきて、今、実はZ世代の子たちの間でも、少しまたブームが戻ってきているのですが、これを見て週末に旅行へ行ったりとか、そういうことをやり始めた。

それから、女子大生ブームです。お亡くなりになっちゃいましたが川島なお美さんとかよくテレビに出ていたりとか、こういう時代だったというのが、この新人類世代です。

それから、その次のバブル世代、これはやっぱり思春期、若いときにバブル景気で、今では懐かしいですが、一億総中

流という言葉がすごくメディアをにぎわしました。実際のところは、もちろん格差は当時もあったのですが、みんなが上昇している感覚を持っていた、そういう一億総中流という懐かしいキーワード。

それから、就職状況はめちゃくちゃいい。就職売手市場という状況の人たちです。

それから、この人たちの特徴はお金を結構使う。今、世代別の貯蓄額を見ると、この世代の人はやっぱり低いんですよ。それはもちろん、管理職になるときに景気が悪くなって、管理職のポストが減らされちゃったとか、リストラに遭ったとか、行きはよいよい帰りは怖いの人たちでもあるので、そういう面もあるのですが、いずれにしてもほかの世代に比べると、結構消費力が強いということで、だんだんこの方たちもいい年齢になってきたので、この方たちが高齢者になったら、もっと今の高齢者よりもお金を使うようになるのではないかと私は予測しています。

ちなみに、これは余談になっちゃうんですけど、若者研究だけではなくて高齢者の調査も結構しているのですが、やっぱり団塊世代までは、基本にお金を使わないですよ、日本の高齢者。団塊世代で変わると思ったのですが、変わらなかったです。結局、病院とスーパーと、仕事がある方は仕事、以上。それ以外ほとんど行かないというのが圧倒的にマジョリティーです。その上の世代の団塊世代も変わらないです。

でも、このバブル世代が高齢者になったら、少し変わってくるのではないかな、アクティブシニアという層が出てくるのではないかと勝手に予測しています。

それから、この人たちの特徴は万能感、要は思春期のときに景気がよかったものですから、俺って何でもできるぜみたい

な感覚をすごく持っていらっしゃる方。

意外と、何でしょうね、上司としては最悪だという意見と、上司としては最高だという意見がありまして、非常に賛否が分かれる世代で、要するにあれもやろう、これもやろうと風呂敷広げてしまうので、会社では大変だと、この世代。ろくでもないこの上司という人もいるし、一方で、例えばもうすぐWBC、ワールドベースボールクラシックやって、多分すごい視聴率取りますが、大谷翔平君を育てた栗山監督は、まさにこの世代です。それから、青学の原監督もこの世代です。意外と名指導者が多いんですよ。

私、実は2人とも仲よくしているのですが、すごく似ているお二人で、青学だって、もう本当に弱小だったのですが、原監督は万能感を持っているから、行けるよ行けるよと褒めまくって褒めまくってやっているうちに、いつの間にか強くなっちゃった。

栗山監督もそうですよね。大谷君はメジャーに行こうと思っていた。ところが栗山監督がじきじきに口説いてきて、翔平、二刀流をやろうよと、彼はびっくりするわけです。そんなことを提案してくれる監督がいるのか。でも、万能感を持っている栗山監督からすると、絶対できると信じているわけですよ。

こういう万能感を持った上司でもあるというふうに言われたりする人たちでもあります。

それから、尾崎豊世代ですから、非常に管理教育の中で、自分たちが反抗したり、ヤンキーとかも多かった層なので、親になったら、モンスターペアレンツとって、最近モンスターペアレンツ問題大分おとなしくなっていますが、この世代が、子供が小学校のときとか、かなり社会問題になったという、ずっと先生たちに反抗している世代の人たちであると

いうことです。

それから、消費文化でいうと女性が非常に注目を浴びた世代であると。特に大都市部だと思うのですが、ジュリアナ、ボディコン、お立ち台、トレンドィードラマとか、W浅野とか。

それから高級車、日産のシーマがバカ売れしたという、本当にバブルの頃だと思うのですが。この前、伊藤かずえさんがテレビで、ずっとシーマを修理しながら乗っているというので、日産から表彰されていたニュースをやっていました。そういうシーマ現象。

それからチーズとかチーズケーキとかティラミスとか、そういう外国の食べ物のブームの火つけ役になっているのも、この人たちであると。

この方たちがだんだんお年を召してきて、40代近辺になってきてから、それまでの日本女性は割と、お母さんになったら少しお化粧品も控え目にしたり、しなくなったり、ちょっと落ち着いたファッションになっていくのが、割と雑誌にあおられているということもあるかもしれませんが、アラフォーとかいって、アラフォーファッションとか、アラフォーメイクとかってやり始めて、今度50代から美魔女と言い始めた。最近は近藤サトさんとか象徴ですけど、シルバーヘアなんて、常にトレンドを追っかけて、トレンドィードラマの人たちという感じがしますね。あんな感じであると。

それから、恋愛結婚に関しては、アッシー、メッシー、ミツグくんとか、今でいうと懐かしいですが、非常に経済中心の恋愛だったと。結婚相手の条件でも三高と、懐かしいですね、言われていましたね。高学歴、高収入、高身長、女性の理想の男性です。

それから、だんだんこの頃から女性も働くようになってきたし、結婚しない人

も増えてきたので、酒井順子さんというエッセイストが『負け犬の遠吠え』という本を書きまして、そういう結婚しない女性は負け犬だみたいな。実は、あの本読めば分かるのですが、「負け犬」というタイトルですが、実は負け犬のほうが楽しいよということが書いてある本なのですが、このような本も出てきたりしたのが、このバブル世代だったりします。

その次が、団塊ジュニア・ポスト団塊ジュニア、これは就職氷河期世代ということで共通しているのですが、ちょっと長いのですが、くくっちゃっています。

この人たちの生きてきた時代背景というのは、サラリーマン、専業主婦、子供2人、いわゆるこれを標準家庭と言いますが、これが定着してきた人たちです。思春期までは非常に日本の経済は強かったわけです。ジャパン・アズ・ナンバーワンとかいろいろ言われてたのが、一挙にバブルがはじけて、就職氷河期になってしまったという、非常に不幸な人たちです。

さっきのホリエモンとかサイバーエージェントの藤田さんとかそうですが、同世代間の賃金格差が物すごく拡大した。それから、小泉政権とかその辺りからフリーターとか非正規雇用というのが非常に増えていったという時代背景。非常に暗い時代を生きてきたということになります。

特徴としては、同世代人口が多く、日本で2番目に多い人口ですから、意外と激しい受験戦争が行われてきた。日本は、この人たちのときより、どんどん少子化が進むのに、大学の数と学部の数を増やしていくという愚かなことを文科省がやっているのです。でも、この人たちのときは、まだ、今より大分少なかったのです、かなり激しい受験競争が行われたというので、割と、だからさっきの安室ちゃん

にしても、浜崎あゆみさんにしても、スマップにしても、嵐にしても、割と競争に強い方たちが代代的に多いんですよ。それは同世代人口が多かったということに起因しているのではないかと思います。

ただ、代代的には非常に不幸な世代だったのでかわいそうなネーミング、ニックネームがいっぱいあります。ロスジェネ、ロストジェネレーション、就職氷河期世代、それから香山リカさんの言葉で、貧乏クジ世代です。もうぼろぼろです。こういう悪口。

この人たちの特徴は被害者意識、バブル世代は羨ましいな、楽に就職できたのに、俺たちはつらかったな、割と代代的に恵まれてないなという感覚を今でも持っている方たちが多い。実際、いまだに就職できないで四、五十代になってしまったとって、政府も、何とかこの人たちを働かせようと予算を割いてやっているわけですが、実際そういう面はあるんです。それから、裏切られた感とか、バブル世代への反発、こういうのが結構強い特徴として見られます。

実はこの世代、あまり言われてないのですが、女性が非常に不幸な世代で、一時期、数年間、短大を含めると、男性の大学進学率を女性が抜いたんですよ、この人たち。要するに男性に追いつけ追い越せで、とうとう大学進学率まで抜いた。ところが就職の時期になった途端に、不景気になってバブルがはじけて、男性の多くは正社員になれたのだけど、実は女性で非正規雇用になる人がすごく増えたという、意外と注目されないのですが、女性が大変な世代だった。

一方で、この人たちの特徴、若いときに最も海外に行った率が高いのが、この人たちです。ここから若者の海外離れ、この人たちより下の世代から言われ始めます。この団塊ジュニア・ポスト団塊ジュ